



# 2022 Annual Report

2022年度 年次報告書 2022/1/1-12/31



FREE THE  
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

03-6321-8948

| [www.ftcj.org](http://www.ftcj.org)

| [info@ftcj.org](mailto:info@ftcj.org)

## OUR STORY 団体のはじまり

1995年、カナダに住む12歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

### 「児童労働の廃絶を訴えていた12歳のパキスタン少年、射殺」

パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で4歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1日10時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出できNGOの助けで児童労働反対を訴える活動家として世界を回っていたが、母国に戻った時、何者かに殺害された。

クレイグは、同い年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、「同じ子どもの問題なら、自分たち子どもでも取組もう」と声をあげ、「FREE THE CHILDREN」(FTC)を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学1年生になると南アジア5カ国をまわる50日間の旅に出ました。そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。そして、クレイグの想像をはるかに超える過酷な環境で働いたくさんの子どもたちのことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたスピーチをして世界をまわるようになりました。

現在、FTCはカイラシュ氏、マララ氏をはじめ多くの著名人と共に、全ての子どもが教育を受けられるように一緒に活動しています。フリー・ザ・チルドレンの活動は世界的に認められ、創設者のクレイグは今まで3回ノーベル平和賞にノミネートされています。

1997年、アメリカのNGOに所属していた中島早苗(現代表)がFTCとクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本を紹介しようと、帰国後1999年に日本でフリー・ザ・チルドレン・ジャパンとして活動を開始。2004年に、法人格を取得しました。国内外の子どもたちへの自立支援事業とともに、国内でのエンパワーメントにも力を入れ、アクションを起こす子どもたちが増えるように、事務局ではスタディツアーやテイク・アクション・キャンプの開催、出前授業などを実施しています。現在、全国の子どもたちがメンバーとして国際協力やさまざまな社会課題解決に向け、それぞれの得意なことを生かしながらアクションを起こしています。



## OUR VISION フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの目指す社会

世界中のすべての人々が【誰一人取り残されることなく】社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害の有無・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会。

## OUR MISSION フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの使命

日本からビジョンを達成するために、社会の一員であり、普段あまり声を聴かれることがない子どもに特に着目し、まずは子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考え、ふたつの「FREE」の実現を目指します。

### Mission 1

国内外の貧困や差別から  
子どもをFree(自由)にする。

### Mission 2

「子どもには世界を変えられない」  
という考えから、  
子どもをFree(自由)にする。



## MESSAGE FROM 代表挨拶 THE CHAIRPERSON OF THE BOARD



2022年2月、ロシアはウクライナへの侵略を開始し、戦争が勃発しました。2022年度末時点で、ウクライナでは少なくとも市民7千人が命を落とし、ウクライナから国外へ逃れている人は800万人を超え、兵士や戦闘員の死者数は、ウクライナ側は1万3千人、ロシアは6万人にも及んでいると報道されています。ウクライナの子どもたちに目を向けると、750万人もが住む場所を追われ、教育や医療へのアクセスも難しくなっているとされています。ウクライナへの侵略は世界に大きな衝撃を与え注目を浴びましたが、悲しいことに2022年度12月時点で実に30以上もの国で武力紛争は行われています。

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、穀物、植物油、エネルギーなどの価格が世界的に上昇しました。特にウクライナやロシアとの経済的関係が深いアフリカ各国では、その影響を強く受け、貧困層がさらにあえいでいる状況を、6月のザンビア出張で目の当たりにしました。貧困地域の人々へインタビューをすると、食料品や生活物資の値上がりにより、多くの人が1日に1食しか食べていない、と話してくれました。

ロシアの武力侵攻によってやむを得ず難民となって隣国に逃げているウクライナの人々を支援したい、という声が子どもアンバサダーをはじめ、団体内部から上がりました。そこで、ちょうどポーランドに留学していた元インターンの石田瑠梨さんが現地からウクライナの人々への支援がどのようにポーランドで行われているのかを調査し、知らせてくれました。また、せっくなのでポーランドの石田さんをつないで急速オンラインセミナーを開いてウクライナの人々の状況を学んだり考えたりする機会をつくりました。

こうした活動を通じて、ウクライナ難民への緊急支援募金を集め、現地に送るなどしました。2022年はその他にも安倍元首相が銃弾で亡くなったり、32年ぶりの円安など、ショッキングな出来事が日本を襲いましたが、団体としては、非常に嬉しい出来事もありました。それは、多くのNGOや子どもの皆さんとともに働きかけをしていた子どもの権利を包括的に守るための「こども基本法」が初めて日本で成立したことです。

貧富の格差は広がり、戦争や温暖化などで先の見えない不安な情勢ではありますが、日本社会がようやく子どもの声に耳を傾けることの重要性を認識し、法整備や仕組みづくりがされることに一筋の希望を見出した年でした。

政府任せにするのではなく、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとして、子どもとともに、子どもの声が聞かれる社会づくりにしっかりと取り組んでいきたい、そしていかなければと実感しています。そのためには、様々なセクターにいる皆様と歩んでいきたいと考えています。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

2022年の物価高騰等で厳しい状況の中にも関わらず、私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンにご協力くださった皆さま、活動に心を寄せて応援くださった皆さま、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

代表 中島早苗

# A look back at 2022

## 一年を振り返る

たくさんの方々の温かいご支援によって、国内外でさまざまな活動に取り組むことができました。心より感謝申し上げます。

# 啓発プログラム WE MOVEMENT

### 同窓会イベント WEUNION DAY 二年ぶりの会場開催

2年ぶりとなる会場開催で実施!会場、オンライン合わせて33人にご参加いただきました。

1月

### テイク・アクション・オンライン・ミニキャンプ

2年前より始まったオンラインキャンプ、今年は春のみ開催しました。

5月 ▶ 8ページ

### 出前授業



オンライン、オフライン様々な形式での出張授業を実施しました。

通年 ▶ 11ページ

### 外部ネットワーク



「子ども基本法」制定に向けた政策提言活動や、イベント開催、啓発活動に取り組みました。

通年 ▶ 14,15ページ

### チェンジメーカー・フェス

昨年度も実施した「子ども・若者のアクションを応援するライブイベント」を今年もオンラインで開催。



3月 ▶ 13ページ

### ハロウィン・フードドライブ キャンペーン



食品ロス削減月間&ハロウィンにちなんだ仮装イベントを世田谷区で開催。

10月 ▶ 12ページ

### 子どもの企画を応援



子ども・ユースのソーシャルアクションの企画・実行を応援するプロジェクト。

8月~12月 ▶ 7ページ

### テイク・アクション・キャンプ夏



2年間オンラインのみで開催していたキャンプ、ついに3年ぶりの会場開催を実施しました。

8月 ▶ 9ページ

### オンラインスタディツアー



昨年度まで中止されていたスタディツアー、今年度はオンラインで開催しました。

12月 ▶ 10ページ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

### フィリピン大型台風「ライ」被災地緊急支援



スーパー「ライ」で特に大きな被害を受けたシャルガオ島の島民へ食糧や生活物資を提供しました。

1月~7月 ▶ 16ページ

### 国内子ども支援 入学・進級応援金

経済的に困難な状況にある約800件の子育て世帯へ、入学や進級にかかる費用を軽減する応援金を配布しました。

2月~4月 ▶ 19ページ

### ウクライナ難民緊急支援

22年2月下旬から始まったロシアによるウクライナ侵攻を受け、ウクライナ難民への緊急支援のための寄付の呼びかけを実施しました。

2月~11月 ▶ 16ページ

### スカラシップ (参加費免除制度)

経済的な理由で参加が難しい家庭の子どもを対象にテイク・アクション・キャンプへのスカラシップ制度を設置。

5月~12月 ▶ 19ページ

### フィリピン 先住民族の子ども 教育支援

ミンダナオ島先住民族の村に暮らす子どもたちの教育環境整備に向けた支援事業を実施しています。

通年 ▶ 13ページ

### フィリピン 視覚障害者支援



視覚障害のある子どもが、遠隔・オンラインでの授業を受けるために必要な機器などの支援を行なっています。

通年 ▶ 17ページ

### インド 子ども教育支援



コロナ禍が長引き、苦しい状況にあるインドの子どもたちへ文房具などの配布を行いました。

3月~9月 ▶ 18ページ

### ケニア保健医療支援

感染予防に関する教育やワクチン接種・移動診療所・医薬品の手配、診療所での医療活動支援を通年で行ないました。



通年 ▶ 19ページ

# 自立支援プログラム FREE THE CHILDREN

## FTCJ YOUNG AMBASSADORS

## FTCJ子どもアンバサダー

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの子どもメンバーの代表である子どもアンバサダーは、全国の子どもメンバーを繋ぐミートアップイベントの開催、自らのアクションを発信する活動のほか、団体運営について意見がある場合は、事務局に提言を行う役割を担っています。

子どもアンバサダー11期(任期:2021年10月~2022年10月)に14名、12期(2022年10月~)に19名が活動中です。積極的に自ら社会問題解決のためのアクションを起こし、発信しています。学年の変わり目や引継ぎの観点から、任期は10月から1年間。現メンバーで2023年10月まで活動予定です。

2月12日	せたがや国際メッセ4名登壇
3月6日	勉強会 文章の書き方講座
3月13日	2022年度総会・意見交換会に出席
3月30日	スフィード世田谷試合会場フェアトレードチョコ販売
4-10月	リレーコラムにて7名が計8回コラムを投稿
4月21日	勉強会 パースデッドネーションのやり方講座
5月1日-31日	1名パースデッドネーション実施し、11,980円の寄付を集めた。
6月5日	児童労働反対イベント・街頭募金実施(千歳烏山)を実施し、13,047円の寄付を集めた
7月23日	こども基本法制定記念シンポジウム2名登壇
8月	新年度アンバサダー募集開始
9月	新アンバサダー19名が就任
9月17日	勉強会 ファシリテーター講座
10月	スモールグループごとに企画会議2回。フェアトレードチョコ販売チーム発足
11月3日	ミートアップを開催 15名参加
11月12日	子ども子育て市民委員会シンポジウム4名登壇
11月20日	メンバー主催のオンラインゴミ拾いイベントを開催し、7名が参加
12月10、11日	子どもの権利条約フォーラムIN那覇全体会に2名登壇、分科会の企画に2名参加



## WE ARE THE MOVEMENT

## ウィー・アー・ザ・ムーブメント



子ども・ユースが発案・企画するソーシャルアクションプロジェクトの実施をスタッフが伴走。プロジェクト実施に向け、企画書の作りこみ、プロジェクトの当日運営、振り返りをサポートしました。

2020年に始動し3回目となった本事業には、子ども・ユースから計8企画の応募があり、2件を応援プロジェクトとして採択しました。また、採用期間外にて比較的小規模かつ短期間で実施可能なプロジェクト支援を行う「ミニアクション枠」にて2件を採用、1件を準備相談対応しました。「若者によるソーシャルアクションの起こし方」、「エシカルコスメ」、「教育の多様性に関する政策提言」、「地域ゴミ拾い」について企画・実施されました。

pick up! /

## 「10代のためのエシカルコスメワークショップ」

企画グループ：中学生による10代のためのエシカルコスメ推進委員会

中学生主催の10代のためのエシカルコスメワークショップを実施しました。10代にとっては、「値段が安いから」「かわいいから」といった理由で選ぶことが多いコスメ。そんなコスメに潜んでいる問題を知り、リップグロス作りという実体験を通してコスメに考えてもらうことを目的に開催。材料は事前に参加者へ郵送し、オンラインで開催しました。コスメの材料には児童労働や動物実験などを含んでいる可能性があることを説明し、人にも地球にも優しい手作りコスメスクール”ethical cosmetic代表の増岡晶子先生から「自分にとって」という視点だけではなく、動物・社会・地球環境へ思いやりを持って選ぶ「エシカルコスメ」やコスメを選ぶ時のポイントなどについてお話を伺いました。その後実際にコスメづくりを行い、参加者からは「手軽にコスメが作れることを知った」、「コスメのメーカーや社会に声を大きくしていくことが大切だと思った」など今回のワークショップで新しい発見をされていた意見がありました。

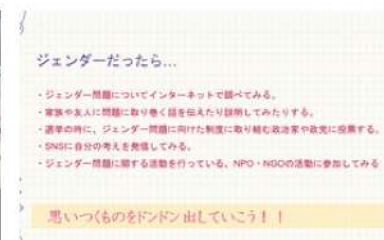


pick up! /

## 「Our Action -みんなでつくろう私たちのガイドブック」

企画グループ：Dear Future,

11月20日の世界子どもの日に、Dear Future, が『Our Action -みんなでつくろう私たちのガイドブック』というイベントを行い、計16人の方にご参加いただきました。6つのチーム(気候変動・ファッションと環境・フードロス・水問題・人種差別・児童労働)に分かれてそれぞれの社会問題について話しあいました。後半では、チームごとに「その社会問題に私たちはどんなアクションを起こすことができる?」という問いについて話しあいました。U25世代だからこそ生まれる革新的なアイデアがたくさん出てきていました。



# TAKE ACTION ONLINE CAMP

## テイク・アクション・オンライン・ミニキャンプ

小学5年生～高校生を対象にした合宿型リーダーシップ・トレーニングプログラム。子どもたち自身が「子どもには世界は変えられない」という考えから脱し、子どもが社会問題や国際協力活動に取り組むための自信とスキルを習得できるプログラムです。

例年は合宿型で実施していた当事業は、前年度よりオンラインにて、2日間のみ「ミニキャンプ」として開催してきました。今年度は8月に宿泊施設にて対面での開催も再開しましたが、オンラインならではの成果も多かったため前年度に引き続き継続して行いました。

オンラインのプログラム構成や内容を充実させ、複数のオンラインアプリケーションを活用しながら、ゴールデンウィーク期間に開催しました。今回はNPO法人ルワンダの教育を考える会の代表を務める、永遠瑠・マリルイズさんをお招きし、ルワンダの歴史やご自身の経験された紛争などについてお話いただきました。また、おうちで実際にアクションを起こしてみる「おうちdeアクション」を行ない、参加者のアクションの1歩目を応援するプログラムになりました。

実施日 5月4日～5月5日

参加者数 16名



# FACILITATORS INTERNSHIP PROGRAM

## 次世代リーダー教育インターンシッププログラム

「相手に寄り添い、個性や意見を引き出す」FTC独自のファシリテーションスキルを学ぶ、主に大学生を対象としたプログラム。受講者はテイク・アクション・キャンプやオンラインイベントでのファシリテーターを担います。

今年度は、3つのコースを実施しました。8月の宿泊型キャンプ「テイク・アクション・キャンプ・ジャパン」を実践の場とする「TACJコース」、オンラインワークショップ「WE TALK "SOCIAL"」の企画運営を実践の場とする「WTSコース」、12月のオンライン連続講座を実践の場とする「TAOCコース」に分かれて研修を行いました。

各コース、2回のファシリテーション基礎研修をオンラインで実施、その後、対面やオンラインでのスキルアップ研修し実践の場に向けて準備しました。TACJコース・TAOCコースのプログラム生は、実践の場でグループファシリテーターを務め、参加者の子どもたちに寄り添いながら安心できる環境を作り、それぞれの意見や学びを引き出しました。WTSコースのプログラム生は、グループを組み、それぞれベジタリアン・ウェルビーイング・女性の権利などをテーマに選び、小学生～大学生向けのイベントを開催しました。

初めてのことばかりの中、企画から当日の進行まで自分たちでやりきりました。子どもへの寄り添いや傾聴スキルはもちろん、チームで動く大切さやマネジメントスキルなど幅広い学びを得られたようです。



# TAKE ACTION CAMP JAPAN

## テイク・アクション・キャンプ・ジャパン

例年は合宿型で実施していた当事業は、コロナウイルス感染拡大に伴い、2年間全面オンラインに切り替え実施していましたが、3年ぶりに宿泊型で実施することができました。

実施日 8月20日～23日

参加者数 23名

開催場所 国立中央青少年交流の家

1日目 キャンプ中は、同年代の7～8人のグループでの活動が多いため、初めにみんなが安心して過ごすためのルールを、メンバー自身で作りました。FTCJオリジナルの子どもの権利カードゲームで子どもの権利について楽しく学びました。

2日目 国内外の教育の格差を体験する「教育の上下」のワークや、3日目のオリンピックゲームに向けて準備を行いました。また、NPO法人アルペなんみんセンター代表の有坂憲治さんを招き、日本の難民申請者の状況や団体の活動について話していただき、センターで暮らす難民当事者の方からもご自身の経験を語っていただきました。夜はタレントショーで大盛り上がり!

3日目 「子どもの権利についてもっと多くの人が知り、権利が守られるようにする」ためのアクションを考え、実行しました。午後には各チームから取り組んだアクションの発表をしてもらいました。そして外でオリンピックゲームでリフレッシュ!自分の好きなことや得意なことと社会問題を組み合わせ、自分にできるアクションプランをそれぞれ考え、夜はキャンプファイヤーで火を囲んで踊ったり、語り合ったり。

4日目 自分が考えたアクションプランをみんなの前で発表し合いました。振り返りとして、卒業帽の制作や、一ヶ月後の自分への手紙を書き、お互いの良いところを伝え合いました。クロージングセッションでは、「私を笑顔に変えてくれた人」「もっと自信を持っていいと思う人」などのテーマに合う人にタッチしていくワークショップを行いました。

### 参加者からの感想

- 前まではあまりアクションができないと勝手に思っていて、あまりアクションをしていませんでしたが、今回こうやってたくさん学びとアクションをした後、私も何ができる感じがし始めました。
- キャンプに参加して様々な考え方に触れ、視野がとても広がった。
- お互いの考えを共有する際に、私と同じ意志を抱く仲間がいるということに改めて気付かされました。
- 新たに社会問題に関する知識を深められたのはもちろん、今後のモチベーションにもつながりました。



## ONLINE STUDY TOUR

### オンラインスタディツアー

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、予定していたすべてのツアーを中止していましたが、今年度はオンラインでのスタディツアーを12月18日に開催しました。フィリピンの街中を探索し、貧困家庭の子ども達との交流を実施しました。

2023年3月にスタディツアーが再開することが決定し、それに向け、フィリピンのゴミ山やスラム街を歩き、支援先の方と話す、オンラインを通じてフィリピンを感じられるスタディツアーを開催。現地には当団体代表中島が訪れ、通訳&案内人を務めました。

実施日 12月18日(日)

参加者数 109名

最初にフィリピンや支援地の概要について知り、かつて、ゴミから自然発火した煙が立ち上っていたことから「スモークマウンテン」と呼ばれたトンド地区のゴミ集積場の様子を見ました。

ナボタスのスラム地域は、マニラ近郊の港町で、地方から仕事を求めてきた人々が住み着き、大きな巣ら鶏を形成しています。街歩きとしてお店やお家訪問、マーケットの様子などを見て回りました。電線が絡まっていたり、鳩がたくさん飼われていたり、どろどろの道をまたいでみたり、日本では馴染みのない光景が次から次へと現れ、参加者からたくさんのコメントと質問が飛び交いました。

最後に、現地パートナー団体であるKPACを通して支援している、スラムに住む子どもたちとお母さんへインタビューを行いました。参加者からの質問に答えてもらったり、将来の夢について話してもらったりしました。彼らの将来の夢は、「韓国と日本に行く」「料理人になる」など。参加者からもポジティブな応援の言葉が寄せられ、相互に交流のある学びのあるスタディツアーになりました。

#### 参加者からの感想

- 全然知らなかった国の生活とか文化とか景色とかを知れてとても刺激になった。現地の様子を生中継で見れるのが新鮮で楽しかった。現地の子たちと話すのが楽しかった。
- 私たちが恵まれた生活をしている中、こんな環境で厳しい生活をしている人が居るという事実の前に前よりも実感を持てた気がする。
- 学校でSDGSに取り組みをしていて、直接的に見たことがなかったので今日は貴重な体験ができた。
- フィリピンの子どもたちに対してのイメージが変わって、みんなとても明るくて楽しく過ごしているなど感じた。偏見を持たないことが大切なんだと学んだ。



(助成:浅井スクスク基金、大東建託グループみらい基金)

## SENDING SPEAKERS

### 出前授業・講師派遣

年間を通じて、社会問題や権利を奪われた子どもの現状、課題解決について出前授業を実施しています。アクティブラーニング形式を大切に、複数のワークショップを組み合わせながら、各学校毎に完全カスタマイズでプログラムを作成しています。

2022年実績 97回  
(オンライン形式・動画上映含む)  
参加対象人数 延べ10,936人

長引くコロナ禍の影響により、22年もオンライン・オフラインの形式を大いに活用し、普段何うことが難しい地域の学校や、全校生徒向けの授業実施を行うことができました。

pick up!

#### 九州訪問！熊本県で出前授業を行いました

- 12月12日～14日に熊本県を訪れ、FTC熊本支部メンバー、熊本県立東陵高等学校、オルタナティブスクールのWING SCHOOL、計3ヶ所でお出前授業をさせていただきました。素敵な機会をありがとうございました！

<b>FTC熊本支部メンバー</b>	テーマ 児童労働・共生社会 対象:大学生・社会人 時間:120分 ワーク:共生社会パズル
<b>熊本県立東陵高等学校</b>	テーマ 世界の格差や貧困 対象:国際コース1,2年生80名 時間:50分
<b>WING SCHOOL</b>	テーマ 児童労働 対象:中学生20名 時間:90分 ワーク:児童労働カードゲーム

授業内容  
・ 貧困や格差についてのクイズ  
・ 自分にできることを考える  
・ 「Gift+Issue=Change」 等

#### 生徒からの感想

- 私たちの小さな行動がいつか世界のためになることがわかった。
- カードを使ったゲーム(児童労働)をしたが、組み合わせは遅いなど全てが実話ということを知り、とても衝撃的でした。
- 少しでも多くの子どもが学校に通えるようにするために自分にできることを見つけて、行動に移していきたいです。

#### 先生からのコメント

- カードでの疑似体験活動がとても実感できて、貴重な経験をさせていただきました。ファシリテーターの方の話が興味深い上にわかりやすく、ご本人の人間性の良さもあり、子ども達にとって素晴らしい内容でした。
- 生徒の意識的には変化したと思います。今後、ボランティアやクラスでの活動等をするときに少しでも積極的にしてくれるのではないかと思います。



#### 2022年 出前授業・講師派遣先

- 小学校:東洋大学、目黒区立油面小学校、八千代市立勝田台小学校、橋本市立あやの台小学校、八千代市立八千代台西小学校、世田谷区立赤堤小学校、弥富市立桜小学校、八千代市立八千代台東小学校、世田谷区立玉堤小学校、松原市立天美南小学校
- 中学校:世田谷区立桜丘中学校、お茶の水女子大学附属中学校、町田市立真光寺中学校、上尾市立上尾中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校、八千代市立阿蘇米本学園
- 高校:西武文理高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立横浜商業高等学校、東京都立大泉桜高等学校、静岡雙葉高等学校、鳥取城北高等学校、名古屋市立北高等学校、春日部女子高等学校、工学院大学附属高等学校、クラーク記念国際高等学校、東京都立国際高等学校、東京都立大泉桜高等学校、大阪府立成城高等学校、福島県立郡山高等学校、福島県立白河実業高等学校、徳島県立板野高等学校、徳島県立徳島科学技術高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立那覇西高等学校、栃木県立益子芳星高等学校
- 大学:大阪女学院短期大学、白百合大学、明治学院大学法学部、上智大学、桐蔭横浜大学
- その他:愛知県教員組合、ESAアジア教育支援の会、立憲民主党、日本弁護士連合会 他

## PUBLISHPMENT 出版/発行/配信

ニュースレター: 56号・57号・58号 各750部  
 アニュアルレポート: 2021年度アニュアルレポート 750部  
 メールマガジン: 登録者7,000人に月2発行 臨時号6回



# CHANGE MAKERS PROGRAM

## FTCチェンジメーカー教育プログラム

アクションの輪を広げるための教職員向けの教材を作成。登録することで団体のウェブサイトより無料でダウンロードすることができます。4つのステップで学び、アクションを考え実践し、振り返る構成になっています。

「FTCチェンジメーカー教育プログラム」は、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ごととして捉え、問題解決に向けたアクションを起こせるようにフリー・ザ・チルドレンが開発したサービス・ラーニング教育プログラムです。

社会問題を学べるワークショッププログラム、実施事例、指導案例などを無料で提供し、全国の先生方に授業で活用していただくことで、今後さらに社会問題解決に向け主体的にアクションを起こす子どもが増えていくことを目指しています。

22年は教材開発やキャンペーンキットの作成等を行いました。また、教員向け教材体験会を開催し年間を通してプログラムを実施する学校のサポートにも取り組みました。



## EVENTS イベント

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが企画実施する自主イベント、他団体やネットワークのイベントに出展参加を通して、団体のミッション達成を目指しています。

22年は、前年に引き続き10月に食糧問題に関する子ども向けイベントをオフラインで開催しました。また、団体の活動報告会を実施することができました。ジョギングしながらゴミ拾いをするプロギングなどのイベントも開催しました。

### ハロウィン・フードドライブキャンペーン

10月1日～31日までの期間内に、全国でフードドライブに取り組むことを呼びかける「ハロウィン・フードドライブキャンペーン」を実施しました。10月は食品ロス削減月間・世界食料デー月間であり、ハロウィンが盛り上がる時期でもあります。その2つを掛け合わせ、「Trash? or Treat?～ごみ?それともごちそう?～」を合言葉に楽しく活動することを大切にしたいキャンペーンです。全国で204名のみなさんがキャンペーンにご参加いただき、合計362kgの食品を各地の機関へ寄付することができました。

10月29日  
30日  
31日

仮装フードドライブイベント、ハロウィン・フードドライブ in 千歳鳥山では、食品ロスについての説明を東京農工大学の学生が行い、プレイブースは子どもメンバーが中心となり、子ども若者が大活躍でした。ハロウィンフードステーションinJR東小金井駅では、食品ロスについて学べるクイズラリーも開催。ファッションショー、回収フード置き当てクイズなども開催しました。

### プロギング

10月23日

代々木公園でプロギングを実施しました。20名の参加者とともに約1時間実施し、7kgのゴミが集まりました！この様子はフジテレビの情報番組「FNN Live News it! Weekend」で取材され、その日の夕方に放映されました。

### 活動報告会

6月28日

当団体のさまざまな活動の内容や成果を報告するため、オンライン(ZOOM)での活動報告会を実施しました。夏はインドのパートナー団体CCDのスタッフと中継しました。



# CHANGE MAKERS FES 2022

## チェンジメーカー・フェス2022

社会課題を解決するためのアクションを起こした子どもや若者を祝い、エンパワーメントするライブイベントを企画開催。コロナ禍の長期化により、2022年もオンラインでの開催となりました。

2021年から会場開催に向けた模索を続けていましたが、コロナ禍の長期化により、2回目となる「チェンジメーカー・フェス2022」もオンラインで開催しました。2022年は、SPATIAL CHATというバーチャル会場を利用し、実施しました。

### 企画概要

【日時】2022年3月19日(土) 15時～17時

【会場】オンライン(SPATIAL CHAT)

【内容】社会活動家・著名人などによるスピーチやパフォーマンス、子どもや若者のアクションによる成果の発表、

子どもや若者活動家(参加者)によるスピーチやパフォーマンス

【対象】国内外の社会課題に対しアクションを起こした25歳以下の子ども・若者及び対象者を介助・引率するおとな

【出演者(敬称略)】土屋アンナ / わたなべちひろ / せやろがいおじさん(えもやん/リップサービス) / ガリベンズ矢野(笑下村塾) / サヘル・ローズ / 波田野優(FTCJ) / 尾崎美結(GLOBAL KIDS英語会)

(VTR出演:おぼん・こぼん / すみれ / たかまつなな(笑下村塾) / テツANDトモ / 古原靖久 / 辻愛沙子)

【助成】大東建託グループみらい基金

【後援】東京都、世田谷区、世田谷区教育委員会

【協力】株式会社フロンティアインターナショナル、株式会社サニーサイドアップ、公益財団法人風に立つライオン基金、一般社団法人OSAKAあかるクラブ、NPO法人WAKE UP JAPAN、広げよう!子どもの権利条約キャンペーン、公益財団法人日本財団、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、JAPAN YOUTH PLATFORM FOR SUSTAINABILITY、SDGS市民社会ネットワーク、認定NPO法人開発教育協会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益財団法人日本YMCA同盟、認定NPO法人ヒューマンライツ・ナウ、一般社団法人ONE YOUNG WORLD JAPAN COMMITTEE

【事務局】株式会社フロンティアインターナショナル



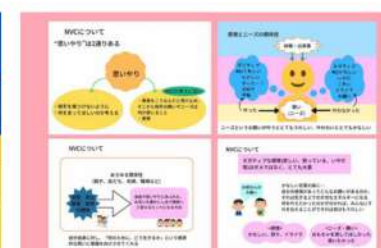
## WE TALK "SOCIAL"

### 無料オンラインワークショップ

2020年春からスタートした無料オンライン講座。世界のことや社会問題について考える、小学生～大学生世代を対象としたワークショップ形式の講座となっています。

2020年春にコロナ禍での国内緊急支援事業として始まった無料オンライン講座「WE TALK "SOCIAL" (ウィー・トーク・ソーシャル)」は、2021年度よりアドボカシー事業として事業化しています。

2022年度は、事務局2回、大学生メンバー4回、大学生教育インターンシッププログラムの大学生が8回、計14回実施しました。ウクライナ難民支援がテーマの会では、ゲストスピーカーとして、ポーランドに留学中のFTCJユースメンバーを招き、ポーランドで行われているウクライナ支援について学びました。また、「相手を思いやるコミュニケーション・1人ひとりのウェルビーイング」をテーマにした会では、「子どもニーズカード」を用いて話し手と聴き手に分かれてNVC(「非暴力<共感的>コミュニケーション」)を実際に体験するワークを行い、ウェルビーイングを考えるきっかけになりました。



## CRC CAMPAIGN

## 広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

国連子どもの権利条約制定30年の節目の2019年に子どもの権利保障を目指しNGOでネットワークを設立。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは実行委員団体として参加。

広げよう！子どもの権利条約キャンペーンは、全国100団体以上の賛同団体により構成されています。

2022年度は、子どもメンバー等とともに「子ども基本法」制定に向けた政策提言活動や、子どもの声を聴くためのイベント開催、その重要性を考える啓発活動に取り組みました。また、こども家庭庁設置準備室と連携し、野田大臣と子どもの対話や、院内集会を開催し、子どもが国会議員などに発言しました。沖縄で開催された子どもの権利条約フォーラムでは、分科会運営を行い、こども家庭庁について子どもと考える機会を持ちました。

## 毎日メディアカフェ

## こども家庭庁に関する子どもシンポジウム

4月30日に、毎日新聞東京本社ビルにある毎日ホールにて、こども家庭庁に関するシンポジウムが開催され、フリー・ザ・チルドレンの子どもメンバー含む計10名の子ども若者が登壇し、フリー・ザ・チルドレンのスタッフ広瀬がファシリテーターを務めました。イベントは、認定NPO法人フローレンスの前田晃平さんによるこども家庭庁設置についての説明から始まり、その後、子どもたちが「特に関心のある課題とそれに関連してこども家庭庁に求めることは何か？」「子どもの権利について知るとわがまになる」という意見についてどう思うか？」等の質問に対してそれぞれの意見を述べていきました。

子どもたちからは様々な話題が挙げられ、中には自身がつらい思いをした実体験を語ってくれた方もいました。大勢の人の前でこのようなことを話すのは決して容易なことではないと思いますが、社会をよくするために伝えよう！と話してくれた子どもたちに心から感謝したいです。このような機会が増えるべきだと強く感じています。



## こども基本法成立 緊急会見

6月15日に、「こども基本法」および「こども家庭庁設置法」が国会で成立しました。この成立を歓迎するとともに、子どもの権利を基盤とする施策が進むことを願い、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」では、6月15日午後、緊急記者会見を開きました。

緊急記者会見では、私たちが目指す社会の実現に向けた前進と今後の課題や、「こども基本法」と「こども家庭庁設置法」の成立を受けた声明文の発表を、本キャンペーン共同代表の甲斐田万智子さん（認定NPO法人国際子ども権利センター代表／文京学院大学教授）と、キャンペーン事務局の岩附由香さん（認定NPO法人ACE代表）から行いました。また、フリー・ザ・チルドレンのユースアンバサダーの波田野優さん（中学1年生）も記者会見に参加し、発言しました。



## JNNE CAMPAIGN

## JNNE / SDG4教育キャンペーン

開発途上国の子どもたちへの教育支援を行っているNGOによるネットワーク。情報交換や政策提言などを行っています。

「SDG4教育キャンペーン2022」では下記の活動を行いました。

- ・9党へSDG4（教育目標）に関するアンケートを実施。自民・公明・立憲・維新・共産・国民・れいわ・社民の8党から回答を得ました。（3月）
- ・アンケート各設問において、「アンケート回答を最も支持する政党はどこか」問うオンライン投票を実施し、全国から3,379名の子ども・ユース・市民が参加しました。（4～5月）
- ・投票結果を踏まえ、6月6日に院内集会を実施し、9名の子ども・ユース代表が与野党11名の国会議員（一部当時の現職を含む）とブラック校則根絶・公立夜間中学校増設・教育費無償化、紛争下の教育支援など、国内外の教育問題・支援に関する提言や意見交換を行いました。
- ・さらに、文科・外務省の高官とも面会し、同様の提言、意見交換を行いました。（7～8月）



## CL-NET

## 児童労働ネットワーク

児童労働問題に取り組むNGOや労働組合、個人により構成され、児童労働の廃絶に向けたキャンペーンなどを実施しています。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは運営委員団体として参加。

6月1日～6月30日に「ストップ！児童労働キャンペーン2022」を開催し、児童労働問題の意識啓発を行いました。2021年は、児童労働のグローバル推計の新たな発表があったことを踏まえ、新しい児童労働に関する情報を伝えるためのオンラインイベントを企画しました。昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考え、オンラインを通じたキャンペーンを展開しました。

キャンペーン内容：

1. ソーシャルハブを活用したキャンペーン参加者を一覧化できる仕組みをウェブページに設置
2. instagramのフィルター作成
3. 「2022年アクションの誓い」の参加呼びかけ



## FAIR TRADE TOWN

## フェアトレードタウン世田谷推進委員会

世田谷をフェアトレードタウンにするため設置されたネットワーク。世田谷区民及び世田谷区にある団体など組織で構成されています。

世田谷区をフェアトレードタウンにするための個人、団体、企業によるネットワークです。フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局が世田谷区に事務所を置いているため、この取り組みに賛同しています。



ネットワークで連携しながらセミナーや勉強会、啓発活動などを行っています。理事に、FTCJから中島早苗が就任。

2022年は、世田谷区内でフェアトレード商品の紹介や販売、セミナーの開催、世田谷区産業復興基本条例検討会、オリジナルドリップコーヒー商品化、世田谷フェアトレードチョコの販売に向けた取組などを行いました。



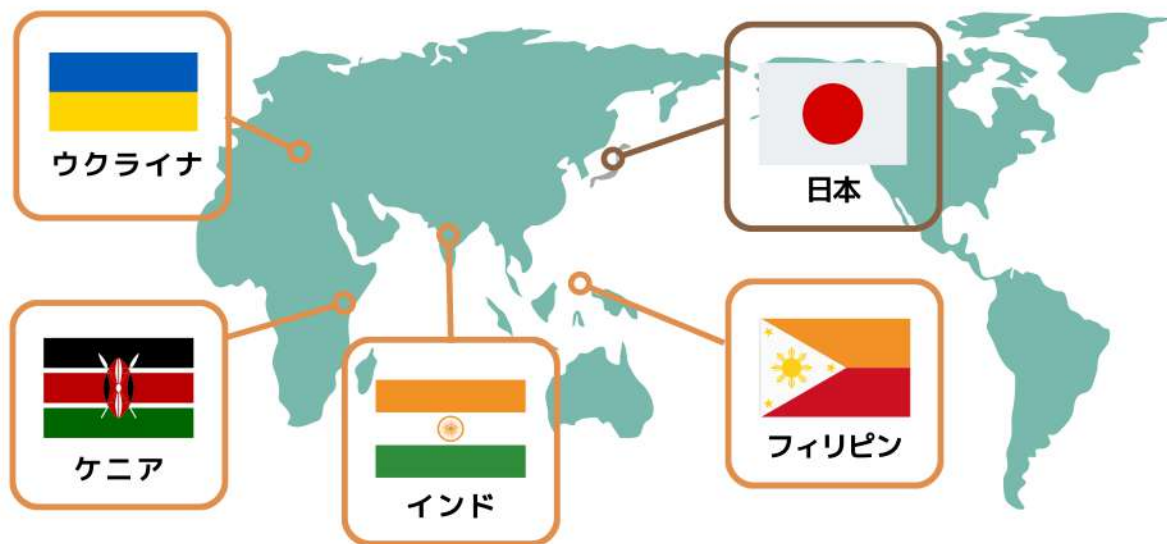
フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、貧困などが原因で困難な状況にある開発途上国や国内の子どもの権利が守られ、質の良い教育を受け自立できるよう、支援を行っています。

THE PHILIPPINES フィリピン支援



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは設立した1999年から現地パートナー団体と協働しフィリピンで事業を実施しています。

2022年に支援活動を実施した国



EMERGENCY RELIEF

海外緊急・復興支援事業

2021年に引き続き、支援事業地にて現地の要望を受け、コロナ禍や災害で大きな影響を受けた子どもたちやコミュニティへの緊急支援を実施しました。

フィリピン台風22号「ライ」被災地域緊急支援

現地NGOを通じて、2021年12月にフィリピンを襲ったスーパー「ライ」で特に大きな被害を受けたシャルガオ島の島民へ食糧や生活物資を提供しました。  
(寄付:㈱サックスパーホールディングス)



フィリピンスラム地域火事支援

2022年4月、フィリピンのマニラ首都圏内スラム地域にて、原因不明の大火災が発生し、70世帯が焼失しました。現地NGOからの緊急要請を受け、火災で家を失った子どもたちへ生活物資や食糧を提供するための資金を送金しました。



ウクライナ避難民緊急支援

22年2月下旬から始まったロシアによるウクライナ侵攻を受け、ポーランドに逃れたウクライナ難民への緊急支援のための寄付呼びかけを4月に実施しました。集まった資金は、ポーランドに逃れているウクライナ難民への食糧・生活物資の提供やメンタルヘルスのケアなどの支援を行っているNGO「Internationaler Bund Polska」へ送金しました。  
(協力:愛知教職員組合連合会、他)



先住民族の子どもへの教育支援

日本の支援者との文通を通じて子どもを支援する「文通プログラム」、チョコレートプロジェクトの収益、2019年夏に実施したクラウドファンディングなどの寄付を用いて、ミンダナオ島先住民族の村に暮らす子どもたちの教育環境整備に向けた支援事業を実施しています。21年9月に修繕(新造)が完了した現地の学校で、竣工式が2022年3月3日に行われました。



視覚障害のある高校生への教育支援

フィリピン盲人連合と協働し、視覚障害のあるフィリピンの低所得家庭の高校生がオンライン授業に対応できるよう、スマホやタブレットなどのICT機器を無料提供及びICTスキル習得のためのセミナーを提供し、教育を受ける権利の保障を行う活動を行ないました。



性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援

寄付やフェアトレード商品の販売収益などによって、フィリピン・ルソン島サンパレス州オロンガポに位置する現地パートナーNGOプレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された青少年への自立支援や、アエタ民族や貧困コミュニティへの自立支援活動の実施することができました。  
(寄付:東京グレートサンタラン2021)



## INDIA インド支援

現地パートナーNGOと協働し、インドの子どもたちの権利が守られ、健やかに育ち、自立できるよう活動しています。

## ▶ 西ベンガル州 CCD支援事業

現地パートナー団体CCDを通じて、西ベンガル州の貧困家庭で暮らす子どもが学校などで教育を受け、栄養ある食事を得て健康に暮らせるよう支援する事業です。そのために貧困家庭の母親など女性にヤギを無料で提供し、収入と栄養をとれるようにする事業にも取り組んでいます。コロナの影響でロックダウン措置により養護施設の運営を休止していましたが、再開できるよう準備も行いました。貧困地域への食糧支援や収入向上支援のためにCCDへ集まった寄付を送金をする予定でしたが、インドの海外寄付規制法 (FCRA) によって、インドNGOへの海外送金手続きが大幅に制限され送金困難な状況となっています。状況が改善されないため、22年度に集めた資金は次年度へ繰越しし、23年度にまとめて送金する予定です。

(寄付: AshAによるクラウドファンディング、工学院大学附属高等学校など)



## ▶ マハラシュトラ州ムンバイ郊外貧困地域の子どもの教育支援

マハラシュトラ州の州都ムンバイ郊外の貧困地域の子どもの教育支援を現地NGOを通じて昨年度実施したオンライン授業を受けるためのICT端末を提供や文房具、学用品を提供活動へのフォローアップを行いました。

現地から、新たに貧困地区に暮らす子どもを対象にした学校建設事業の計画について連絡があり、どのように協力をするのか話し合いを実施しました。コロナの影響や物価高により貧困家庭では教育費を捻出することが数年前よりも非常に厳しくなっている状況があるため、無償で質の良い教育を貧困家庭の子どもたちが受けられるようにするための学校運営を新たにマハラシュトラ州の貧困地域で展開するために、どのような資金調達や事業計画、また学校の運営方法が重要かについて意見交換をしました。



## ▶ ケニア支援

ナロック群南ナロック県のマサイ民族やキクユ民族に対して、コロナ感染を予防・治療するためのモバイルクリニックを通じた支援を実施しました。特に子どもや妊産婦への健康向上・維持のための保健医療支援を行いました。また、女子教育への理解が低い地域があるため、啓発を行うとともに、貧困家庭の女子が質の良い中等教育を受けられるよう、奨学金支援を行い、女子への中等教育支援に注力しました。

(寄付: 東京グレートサンタラン2021、東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチーム)



## ▶ ザンビア調査

首都ルサカで暮らす貧困家庭(特にシングルマザー家庭)を支援する活動に取り組む現地NGOの支援の様子や、ルサカにおける学校教育及び保健医療の現状を調査するため、JICAオフィスの他、現地医療機関や学校を複数訪問し、1週間調査を行いました。コロナやウクライナ侵攻による物価上昇による生活苦が貧困家庭をさらに経済的に厳しい状況に追い込んでいる様子が分かりました。貧困家庭への聞き取りを行い、1日に1食しか食べていない家庭が多かったことから、まずは食糧支援を行えるよう取り組んでいくことから始めるのが良いのではないかと計画を立てました。

支援プログラム FREE THE CHILDREN PROGRAM

国内支援事業

## SCHOLARSHIP PROGRAM

## スカラシップ (参加費免除制度)

国内の経済的困難にあるなど生きづらさを感じている子どもたちを対象に、テイク・アクション・オンラインキャンプと夏の対面のテイク・アクション・キャンプへ無料で招待するスカラシップ(参加費免除制度)を通じ支援を行いました。2回のキャンプに小学5年生~高校3年生の計148名が参加し、そのうち75人をスカラシップ生として無料招待しました。参加費全額補助に加えオンラインプログラムではWifi・PCレンタル実施し、対面プログラムは交通費補助も行いました。

(助成: 大東建託グループみらい基金)

## NEW SCHOOL YEAR SUPPORT

## FTCJ入学・進級応援金

ひとり親家庭や新型コロナウイルスの影響を受けた世帯、その他様々な理由で家計がピンチな状況にある世帯で、2022年度4月から入学・進級するお子さんの新学期の準備金の支援が必要な世帯を対象に5,000円の支援金を贈る「応援金サポート」を実施しました。当初の募集人数であった300名を大幅に超える5,800名以上の方からのお申込がありました。ひとりでも多くの方へお届けできればという思いで、協賛企業さまやその他寄付者の皆さまにお声かけし、枠を増やすなど対応しましたが、応募者全員にお届けすることが難しく、抽選で選考し、805名の方に応援金を贈呈しました。(寄付: ジュネスグローバル社(ジュネスキッズ))



# MEDIA APPEARANCES メディア掲載



中学・高校の社会科、家庭科、英語の教科書に当団体の活動が掲載されています。  
 高校英語教科書UNICORN/中学生公民教科書/高校英語教科書English Now!/英語教科書 ONE WORLD 他



毎日新聞にFTCJスタッフ・子どもメンバーが登場した、4/30 毎日メディアカフェシンポジウム「子ども家庭庁に関する子どもシンポジウム」が掲載されました。

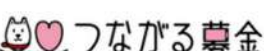
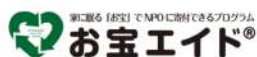
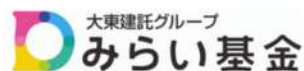


朝日新聞紙面とWebメディア「SDGs ACTION!」にFTCJスタッフの伊藤のインタビューが掲載されました。



子どもメンバー、栗秋佳真さん(小学3年生)がハロウィンフードドライブキャンペーンとして取り組んだ食品ロス削減に関する啓発アクションが10月26日毎日小学生新聞の1面に掲載されました。

## 私たちの活動を支えてくださっている法人のみなさま



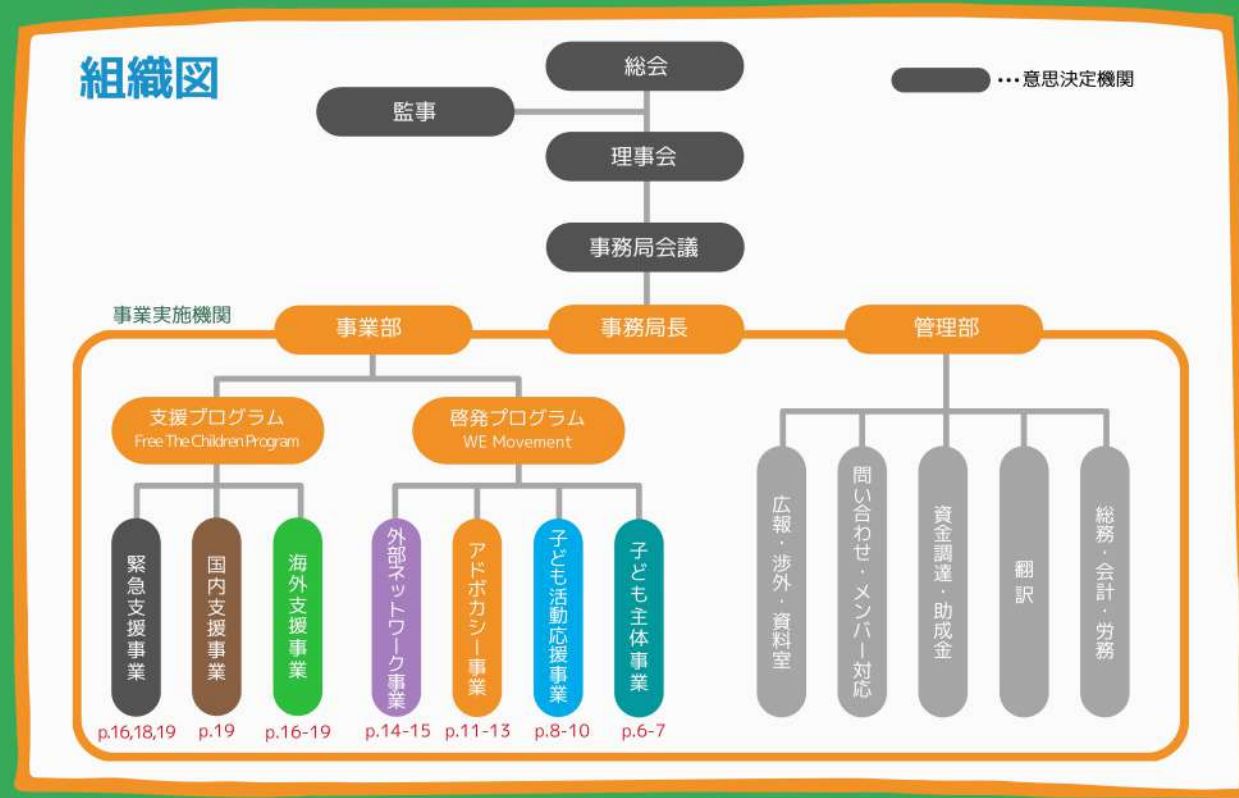
寄付・協賛協力(順不同)

大東建託グループみらい基金、JEUNESSE KIDS FOUNDATION, INC、ジュネスグローバル合同会社、株式会社東京デリカ、株式会社サックスバーホールディングス、ランチパッドテクノロジー&パートナー株式会社、株式会社バーナム、株式会社シンシエイト、株式会社パワープロジェクト、テクニカ・ゼン株式会社、株式会社太閤オフィスサービス、東京グレートサンタラン(一般社団法人OSAKAあかるクラブ)、ストライプジャパン株式会社、地球愛祭り東京実行委員会、上智大学公認サークルAshA、かみひとネットワーク京都、八王子ロータリークラブ、愛知県教職員組合連合会、大府市教職員組合、半田市教職員組合、東海市教職員組合、常滑市教職員組合、株式会社ブギ、株式会社ボーダレス・ジャパン、株式会社ソリオ、イノベーション株式会社、株式会社ZEN、公益財団法人パブリックリソース財団、一般社団法人H2Oサンタ、株式会社Take Action、ソーシャルアクションカンパニー株式会社、ホワイトエッセンス株式会社、ソフトバンクつながる募金、日本バプテスト厚木教会、工学院大学附属高等学校、駒沢学園女子高等学校、学校法人中村学園 校友会総務部、横浜市立みなと総合高校図書館、上尾市立上尾中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校ボランティア部、大阪府立箕面高等学校文化祭、春日部女子高校、認定こども園厚木幼稚園

助成金(順不同)

子どもゆめ基金、連合・愛のキャンパ、キリン福祉財団 キリン・地域のちから応援事業、浅井スクスク基金、FITチャリティ・ラン

# ORGANIZATION 組織体制



## 組織概要

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
 設立:1999年1月1日/NPO法人取得:2004年9月21日  
 東京都より「認定NPO法人」認証:2017年3月13日

事務所所在地  
 〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山 6-6-5 3F  
 正会員数:45名

- 代表理事:中島早苗
- 副代表理事:原元望
- 理事:出野恵子、志賀アリカ、伴野保志、中島慎治、林大介、藤井裕子、松下耕二、佐藤美紗子
- 監事:倉下由香、宮島珠

## 子どもアンバサダー(敬称略)

11期(2021年10月~2022年10月):あんな(中1)、今川つかさ(中)、植岡優里奈(中3)、刈屋彩乃(中3)、じゅの(中2)、高石莉緒(高1)、なの(中3)、なみさりの(高2)、波田野優(小6)、まつかわかなえ(高1)、宮武喜更(中3)、山口きよたか(中1)、山岸永実(中3年)、横澤日菜子(高2)

12期(2022年10月~2023年10月)  
 相羽 絆良(小5)、吉田日月生(小6)、紙 花菜(中1)、白井 咲羽(中1)、波田野優(中1)、武川小春(中2)、田中 生与(中2)、寺本凛香(中2)、山口清崇(中2)、高木萌伽(中3)、若狭留名(中3)、植岡優里奈(高1)、刈屋彩乃(高1)、坂口くり果(高1)、高村理彩(高1)、田中菜乃(高1)、箱田晴大(高2)、گران優那(高3)、森垣穂香(高3)

## 事務局体制・役割

中島早苗(代表理事兼任):自立支援事業・組織運営全般  
 原元望(副代表理事兼任):国内事業・組織運営全般  
 出野恵子(理事兼任):事務局長・子ども活動応援事業  
 伊藤菜々美:子ども活動応援事業リーダー  
 広瀬太智:子ども活動応援事業 スピーカー・ファシリテーター  
 板倉香子:会計・総務  
 田中理帆:広報  
 鈴木洋一:子ども活動応援事業  
 鈴木悠仁子:子ども活動応援事業、アドボカシー事業  
 藤井裕子(理事兼任):関西での活動  
 河本千夏:アドボカシー事業(育休中)  
 ボランティア  
 伴野保志(理事兼任)・坂口奈々:個人情報管理  
 S.S:事業運営サポート  
 その他ボランティア5名、翻訳ボランティア25名

## アドバイザーご紹介(敬称略)

堀内光子:労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。  
 河合将生:NPO・NGOの組織基盤強化やマネジメントのコンサルタントなどを行うOFFICE MUSUBIME代表  
 平尾潔:日本弁護士連合会所属、世田谷区せたかやホッピ子どもサポート委員  
 長田和弘:税理士、中小企業診断士、準認定ファンドレイザー

## インターンご紹介(敬称略)

ミッタルスワティ、芳野実羽、津嘉山菜



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、2017年3月13日、都庁より認定NPO法人として認定されています。これにより、当団体への皆さまからのご寄付は「特定寄附金」とみなされ、寄附金控除の対象となります。詳しくは団体ウェブサイトをご覧ください。

*Together*  
WE CAN CHANGE  
THE WORLD  
FREE THE CHILDREN JAPAN

**「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に**

FREE THE  
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 安藤ビル3F

03-6321-8948 / 080-3218-5693

info@ftcj.org www.ftcj.org

